

# 2013 年日本建築学会賞（論文）

## 選考経過

### 応募状況の概要

学会賞（論文）は、近年中に完成し発表された研究論文であって学術の進歩に寄与する優れた論文に対して寡少を旨として授与されるものである。今年は合計 28 件の応募があり、昨年の 31 件に比べ 3 件減少した。応募論文の内訳は、構造系 13 件（材料・施工 2、構造 11）、環境系 3 件、計画系 11 件（建築計画 1、農村計画 1、都市計画 3、建築歴史・意匠 5、情報システム 1）、総合系 1 件（地球環境 1）であり、昨年と比べると、構造系 1 件減、環境系 4 件減、計画系 2 件増、総合系は同数であった。全体に占める系ごとの割合は、構造系 46%、環境系 11%、計画系 39%、総合系 4%であった。

### 審査経過の概要

#### 1. 論文部会審査方針

昨年度の申し送り事項を受け、「長年に亘り連続応募があった候補論文」について審議を行い、論文部会審査方針にその取り扱いを明記した。そのほかの事項については、これまでの審査方針を正しく運用することを確認した。

#### 2. 審査結果

##### （1）予備的な審査と専門委員の委嘱

審査に先立ち、候補業績と委員との関係が深いものの有無を確認したところ、1 名の委員からの申し出があり、当該業績の審査については一切関与させないこととした。その後、論文部会委員 13 名が各専門に応じて構造系、環境系、計画系に分かれ、また総合系については複数系からの部会委員が担当し、予備審査を行った。まず「長年に亘り連続応募があった候補論文」についての確認を行った結果、1 件が該当すると判断した。当該候補論文について変更された応募内容を審査したところ、従前から格段の変化は認められないと判断されたため、専門委員への新たな下審査依頼は行わないこととした。そのほかの 27 件については、各応募論文に対し 2 名（正・副各 1 名）の担当部会委員を決め、1 論文 3 名の専門委員を委嘱して下審査を依頼した。また候補者が筆頭著者でない論文について、その論文を候補者の業績に含めることの了解を記した筆頭著者からの署名入り文書を確認した。

##### （2）各系の審査

各系では専門委員の審査報告および担当委員の所見を踏まえて慎重な審査を行い、候補論文の中から授賞対象として部会へ提案するものとそれぞれの順位を決めた。

##### （3）部会審査

はじめに各系における選出経過と、①分野の集大成、②独創性、③新しい分野・境界領域の観点を踏まえた推薦順位の理由についての説明を受けた。各系から授賞対象として提案された候補論文数は、構造系、環境系、計画系の 3 系がそれぞれ 2 位までの 2 件ずつ、総合系は該当なしの合計 6 件であり、表彰業績基準の 10 件を超えない数であった。今年度の学会賞への応募件数比率とこれまでの表彰件数などを勘案し、系ごとの表彰件数と授賞対象として提案された候補論文について慎重に議論を行った。その結果 2013 年の学会賞に値する寡少の論文として、提案された構造系 2 件（構造 2）、環境系 2 件、計画系 2 件（農村計画 1、都市計画 1）の合計 6 件全てが適当とされ、授賞候補業績として選出された。